

また町の北部には米軍横田基地があり、茶畑の上を飛びたっていく飛行機の姿もしばしば見かけられた。東京にこのような町があることを知るのは

驚きであり、また地理という学問における実地調査の重要性を感じた一日であった。

(7月14日 内藤教官指導)

筑 波 巡 検

杉 山 圭 子

10月3日、小春日和の中、筑波学園都市内の国土地理院の見学を旨とする筑波巡検が行われた。三上先生、栗原先生の指導によるこの巡検も、1年生にとってはや3回目。やっと要領が把握できたという感じである。

初めて目にした地理院は、思ったより整然と建っており、この中が印刷工場になっているとは思えない。しかし、実際に見学を終えてみて、地図作りというのは予想以上に精密、慎重かつきれいな作業であることを痛感させられた。

玄関をくぐり、最初の部屋で建物の内部の説明、つづいて地図の説明をうける。私達の先輩がここでも働いていらっしゃることを知り心強く思った。まず案内されたのが図化室。現地測量から空中三角測量、現地調査、図化素図、編集、鉛筆素図、スクライブ原図——と幾つもの過程を経て2万5千万の一地形図、すなわち演習の時等に使用している白地図が作られることを学ぶ。等高線を追うたびに神経をすりへらしている私達——けれどその線の1つ1つが、気の遠くなるほど緻密なスクライブから出てきていると考えると、地図学とい

うのはつくづく根気の要る学問だと思った。

つぎに輪講室。ここでは主題図の編集が行われている。部屋には多種多様のグラフィックが飾られており、実際に回転機で印刷されるところも見せてもらった。つづいて資料館に案内され、製図の歴史等の見学を終えたところで昼食。

腹ごしらえをした後は、海底地形調査等の実験を行う実験水槽や地図写真撮影室、コンピュータ解析による画像編集の部屋などを見学、システム化された機械類に感心した。

今回の巡検は、室内見学であっただけにかえて疲れた感もあるが、日頃何げなく利用している地図——その誕生過程を知ることができたのは大きな喜びであったと思う。無味乾燥に見える線の一本一本が、紛れもなく人間の手によって彫られていること、そして地図の一枚一枚が、肉眼による検査にパスして売られていると知ったことは地図への愛着を深める意味で、大変有意義であった。

(10月3日 三上・栗原教官指導)

五 日 市 巡 検

奥 山 育 子

大学の開学記念行事として行われた5月31日の五日市巡検であるが、諸先生方、学生と、総勢50余名の参加があり盛況であった。

前夜の少雨もあがった初夏の候、五日市の中心市街を抜け、まず広徳寺をめざす。土蔵造りの残る町のたたずまいに、町並の歴史を感じる。浅い河床に礫の見える秋川を渡り、登り道を巡ると、

高位段丘上に位置する臨済宗広徳寺の山門に到る。流域屈指の古刹であり、簡素にして堂々たる本堂のあたりはさすがに閑寂としている。ここより今熊山の方向へ。途中、変電所のある付近は、谷中分水界、刈寄川の支流が川口川の源流を争奪して生じたウィンドギャップである。変電所の傍で昼食。雨あがり新緑が映え、鶯の声も響いてくる。